投手の１２秒及び２０秒ルールの取り扱い基準（準々決勝以上は採用する。）

1. １２秒及び２０秒ルール

投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、
走者がいない場合には１２秒以内に、走者がいる場合には、２０秒以内に投球しなければならない。
違反した場合は、球審は走者が塁にいない場合にはただちにボールを宣告し、
走者がいる場合は警告を発することとし、同一の投手が２度繰り返したら、３度目からはその都度ボールを宣告する。
なお、塁に牽制球を送球したときは、２０秒の計時をリセットする。

2. 計時

計時は二塁塁審がストップウォッチを持って行う。（３人制は三塁塁審）

3. １２秒ルールの適用

①走者がいない場合に適用する。
②１２秒の計時は、投手がボールを所持し、打者がバッターボックスに入って投手に面したときに始まり、ボールが投手の手から離れたときに終わる。
※投手が投手板についているかどうかに関係なく、打者の準備が整ったときに計時を始める。
③１２秒を経過したとき（１３秒になったとき）、二塁塁審（三塁塁審）はタイムを宣告し、球審に１２秒が経過したことを知らせる。
※二塁塁審（三塁塁審）のタイムの宣告と同時にボールデッドとなる。
※タイムの宣告にもかかわらず投手が投球した以後のプレイは無効とする。
④二塁塁審（三塁塁審）の知らせを受けた球審は、ボールを宣告する。その際、球審は投手及び守備側の監督に１２秒ルールを適用したことを告げる。

4. ２０秒ルールの適用

①走者がいる場合に適用する。
②２０秒の計時は、次のときに始まり、いずれの場合も投手の手から離れたときに終わる。
A)イニングが始まるときやボールデッドになったときは、球審がプレイを宣告したとき。
B)ボールインプレイの状態で、新しい打者が打撃を開始するときや、打者がバッタースボックスの外に出ざるを得なくなったときなどは、投手がボールを所持し、打者がバッタースボックスに入って投手に面したとき。
※投手が投手板についているかどうかに関係なく、打者の準備が整ったときに計時を始める。
C)ボールインプレイの状態で、打者がバッタースボックス内で打撃を継続しているときは、投手が捕手や他の野手からボールを受け取ったとき。
※投手がボールを受けてから１８秒たっても投球動作を開始していない場合は、ボールが投手の手を離れるまで２０秒を超える。
③１度目及び２度目の２０秒を経過した場合の投球はそのまま続けさせる。その投球に伴うプレイが止まったところで二塁塁審（三塁塁審）は「タイム」を宣告し、球審へ２０秒を経過したことを伝達する。球審は、投手及び守備側の監督に２０秒が経過した投球であることの警告を発するとともに、その回数を知らせる。
※タイムの宣告以前のプレイは有効とする。
④３度目に２０秒を経過し２１秒になったとき、二塁塁審（三塁塁審）と球審は、走者がいないときと同様の処置をする。
⑤投手が塁に牽制球を送球したときは、２０秒の計時をリセットする。
※投手板をはずしただけのときや偽投のときは、計時を継続する。
※送りバントのケースなど、捕手が内野手にサインを出している間も、計時は継続する。